

2026年6月4日

## 第57期中央労働講座を受講して

北海道地方釧路支部

川奈部 若之

5月27日～29日の3日間で豊橋のシーパレスにて第57期中央労働講座が行われました。受講人数は28名で私自身2回目の参加でありました。

1日目は15時より開講式が行われ、松永書記長の挨拶から始まり、その後「全港湾の歴史について」という題目で鈴木誠一中央執行委員長から最初の講義を受けました。戦後の港湾労働や組織の結成、諸先輩方が勝ち取ってきた要求の歴史等、多くを学びました。自分自身全港湾の歴史を理解し、下の世代にも継承していくことが重要であり、港湾労働者の規制緩和に反対し、規制強化を求めていく運動が必要であると感じました。

2日目には初めに森屋隆前参議院議員（立憲民主党）より「今の日本の政治情勢と今後の行方」の講義を受けました。現在の高市内閣の政治情勢など様々なことを学ばせていただきました。政治権力の生産者は「国民自身」であり、間違いを起こした権力者をその座から追い払うのもまた、国民自身であるとういうこと。ネットの画面によって分断されることなく、全港湾をはじめとする現場の仲間たちがリアルな「横の連帯」を編み直し、当事者意識を持って地道に運動を積み上げていくこと重要であると感じました。その後、松永書記長より「産別協定と事前協議制度」の講義を受けました。先輩方が命がけで勝ち取り、守り抜いてきた「中央協定」と「事前協議制度」であり、これらは港の秩序を維持し、新規参入による混乱を防ぐための絶対的な砦であるということを感じることができました。

3日目の最終日には、講義全体についてグループ討論を行い、港湾の今ある権利、制度や協定というものは劣悪な労働環境の中において、先人の港湾労働者たちが命がけで勝ち取って守り抜いてきたものであり、これを継承し残していかなければならないものだと知りました。今の日本の政治情勢は自民党高市政権が2/3を超える議席を獲得し、憲法改正や裁量労働制等、国民より国家を優先する政策を取ろうとしている。さらに昨今のSNSの影響で自分の好む情報だけを取り入れ、自分と相容れない考えは認めない、自分さえ良ければいいという傾向があり、このままでは先人の港湾労働者が作り上げたもの、さらには日本の平和までも脅かされてしまう。この危うい状況を変えていくためには、国民一人一人が当事者意識を持って行動すること。そのためにも、講義の中でもあったように中間組織の再興が重要であると話されました。その中間組織こそ、まさに労働組合の役割である。そのためにも、この全港湾が全ての労働組合の先頭に立つ気概を持って、これからも学習をし、行動する。そして全国から集まれるこの全港湾の組織力を最大限発揮することが最重要であると

再認識した、この3日間でした。

最後に、第57期中央労働講座を受講された28名の皆さん3日間お疲れ様でした。グループ討論や2日目のレクリエーションのドッジボール、夜の懇親会では普段なかなか話すことができない他の地方の方々と親睦が深められ、とても有意義な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。また、講師を務めていただきました鈴木誠一委員長・森屋隆前参議院議員・松永書記長、そして進行・準備を行って頂きました石原教宣部員の皆様、大変ありがとうございました。